

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 看護の定義 看護の対象 看護の役割 看護倫理 看護理論 制度

学習目的: 看護学の導入として、看護の本質について学び、看護全体の概要について学ぶ。看護の対象である人間を統合的にとらえ、看護の役割、機能を学習する。また看護専門職として人のいのちと向き合う責務、倫理観を養い、看護者としての厳しさ、感動を自覚し、看護とは何かを追求する力を身につけられるよう看護学の基盤を学習する。

到達目標:

1. 看護の定義や看護の対象について理解する
2. 看護実践のための理論的根拠を理解する
3. 看護の提供のしくみについて理解する
4. 看護における倫理について理解する
5. 看護の基盤となる理論から看護の概念について理解する
6. 看護をめぐる制度と政策について理解する

授業内容:

第1回	看護の定義 (看護の本質 定義 役割と機能)
第2回	看護の対象となる個人・家族・地域の理解①(人間 健康 生活者)
第3回	看護の対象となる個人・家族・地域の理解②(環境 家族 地域と健康)
第4回	看護の変遷
第5回	看護実践のための理論的根拠①(科学的根拠)
第6回	看護実践のための理論的根拠②(ヒューマンケアリング)
第7回	看護の基盤となる理論 (ナيتينゲール、ヘンダーソン)
第8回	ナيتينゲールの看護
第9回	ナيتينゲールの看護 グループ発表
第10回	看護の提供のしくみ①(看護サービスの提供の場)
第11回	看護の提供のしくみ②(チーム医療 多職種)
第12回	看護における倫理
第13回	看護をめぐる制度と政策①(看護職の資格と養成にかかわる制度 法的側面など)
第14回	看護をめぐる制度と政策②(看護と経済 診療報酬と人員配置)
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(1) 看護学概論 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナيتينゲール 「看護覚え書」 日本看護協会出版会

参考図書: ジーン・ワトソン 「ワトソン看護論ヒューマンケアリングの科学」 医学書院

評価方法: 筆記試験 100 点

コミュニケーション技術論

対応 DP:2

履修年次: 1年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 15時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: コミュニケーション技術 人間関係 プロセスレコード

学習目的: 看護実践の基本となる人間関係について理解し、人と人との関わりについて、ヒューマン・ケアリングがもたらす相互性、関係性を深めながら、看護を実践することの大切さを学ぶ。さらにその体験から相互に成長できる人間関係技術について学習する。

到達目標: 1. 看護実践の基本となる対象理解のためのコミュニケーション技術について理解することができる
2. 看護における人間関係を考えることができる
プロセスレコードの作成等を通し人間関係の相互作用について考えることができる

授業内容: 第1回 対象を理解するためのコミュニケーション技術
第2回 看護専門職として求められるコミュニケーション【演習】
第3回 看護実践に活かすプロセスレコード①
第4回 看護場面のコミュニケーションにおける人間関係①【演習】
第5回 看護場面のコミュニケーションにおける人間関係②【演習】
第6回 看護実践に活かすプロセスレコード②【演習】
第7回 コミュニケーション技術まとめ
第8回 評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
ジーン・ワトソン 「ワトソン看護論ヒューマンケアリングの科学」 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

生活援助技術論Ⅰ

対応 DP:3

履修年次: 1年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 看護技術 安全確保 感染防止 標準予防策 環境調整 リネン類の取り扱い 安楽

学習目的: 人間にとって生活環境、健康生活を保持するため、欠かすことのできない基本的な感染防止、環境調整技術について、技術的根拠を基に、原理・原則を踏まえた安全・安楽な看護技術を習得する。さらに、個別性や自立度など対象に合わせた看護について学習する。

到達目標:

1. 看護技術の基本原則と特徴を理解することができる
2. 安全及び安楽確保の基本的知識とともに事故防止の重要性を理解することができる
3. 感染防止の基本的知識を理解し、標準予防策を実施することができる
4. 環境調整の基本的知識を理解し、安全・安楽に援助を実施することができる

授業内容:

第1回	看護技術の基本原則と特徴
第2回	安全確保の基礎知識と技術
第3回	感染防止の基礎知識と技術 【演習】
第4回	環境調整技術①
第5回	環境調整技術② ベッドメイキング 【演習】
第6・7回	環境調整技術③④ ベッドメイキング 【演習】
第8・9回	環境調整技術⑤⑥ 環境整備・リネン交換 【演習】
第10・11回	環境調整技術⑦⑧ 臥床患者のリネン交換【演習】
第12・13回	環境調整技術⑨⑩ 病室の環境のアセスメントと調整 【演習】
第14回	環境調整技術⑪ 病室の環境のアセスメントと調整 【演習】
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア
ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナイティンゲール「看護覚え書」 日本看護協会出版会

評価方法: 筆記試験 100点

生活援助技術論Ⅱ

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 体位 ボディメカニクス 移動・移乗 休息・睡眠 食事 排泄

学習目的: 人間にとって生活環境、健康生活を保持するため、欠かすことのできない活動・休息援助技術、食事・排泄援助について、技術的根拠を基に、原理・原則を踏まえた安全・安楽な看護技術を習得する。さらに、個性や自立度など対象に合わせた看護について学習する。

到達目標: 1. 活動・休息援助技術の基本的知識を理解し、安全・安楽に留意し技術を実施できる
2. 食事の基本的知識を理解し、食事援助を実施することができる
3. 排泄の基本的知識を理解し、排泄援助を実施することができる

授業内容: 第1回 活動・休息援助技術①
第2回 活動・休息援助技術②
第3・4回 活動・休息援助技術③④【演習】
第5・6回 活動・休息援助技術⑤⑥【演習】
第7回 食事援助技術①
第8回 食事援助技術②
第9・10回 食事援助技術③④【演習】
第11回 排泄援助技術①
第12回 排泄援助技術②
第13・14回 排泄援助技術③④【演習】
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナイティンゲール 「看護覚え書き」 日本看護協会出版会

評価方法: 筆記試験 100 点

生活援助技術論Ⅲ

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 清潔 衣生活 全身清拭 寝衣交換 手浴 足浴 洗髪 陰部洗浄

学習目的: 人間にとって生活環境、健康生活を保持するため、欠かすことのできない清潔・衣生活援助技術について、技術的根拠を基に、原理・原則を踏まえた安全・安楽な看護技術を習得する。さらに、個性や自立度など対象に合わせた看護について学習する。

到達目標: 1. 清潔の基本的知識を理解し、清潔援助を実施することができる
2. 衣生活の基本的知識を理解し、衣生活援助を実施することができる

授業内容: 第1回 清潔・衣生活援助技術①
第2回 清潔・衣生活援助技術②
第3・4回 清潔・衣生活援助技術③④ 全身清拭・寝衣交換【演習】
第5・6回 清潔・衣生活援助技術⑤⑥ 全身清拭・寝衣交換【演習】
第7・8回 清潔・衣生活援助技術⑦⑧ 部分的な清潔援助 洗髪【演習】
第9・10回 清潔・衣生活援助技術⑨⑩ 部分的な清潔援助 手浴・足浴【演習】
第11・12回 清潔・衣生活援助技術⑪⑫ 部分的な清潔援助 陰部洗浄【演習】
第13・14回 清潔・衣生活援助技術⑬⑭ 身体清潔のアセスメントと援助【演習】
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナイティンゲール 「看護覚え書き」 日本看護協会出版会

評価方法: 筆記試験 100 点

ヘルスアセスメントⅠ

対応 DP:3

履修年次: 1年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント 心理・社会的側面のアセスメント

学習目的: 解剖生理学、心理学、社会学等の基礎知識を活かし、看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解するとともに、フィジカルイグザミネーションの方法を学習し、バイタルサイン測定を中心に身体の状態を把握するための基本的技術を習得する。

到達目標: 1. ヘルスアセスメント(身体・心理・社会面)のもつ意味や視点を理解することができる
2. フィジカルアセスメントの目的や基本技術を理解することができる
3. バイタルサイン測定の意義や測定値の正常・異常を理解することができる
4. 対象の安全安楽を確保し、バイタルサイン測定を正確に実施することができる

授業内容: 第1回 ヘルスアセスメント① ヘルスアセスメントが持つ意味と視点(身体的)
第2回 ヘルスアセスメント② 心理・社会的側面のアセスメント
第3回 フィジカルアセスメント①
第4回 フィジカルアセスメント② バイタルサイン測定:体温・呼吸・脈拍【演習】
第5回 フィジカルアセスメント③ バイタルサイン測定:血圧【演習】
第6回 フィジカルアセスメント④ バイタルサイン測定:血圧【演習】
第7・8回 フィジカルアセスメント⑤⑥ バイタルサイン測定:一連の測定・報告【演習】
第9・10回 フィジカルアセスメント⑦⑧ バイタルサイン測定:一連の測定・報告【演習】
第11・12回 フィジカルアセスメント⑨⑩ バイタルサイン測定:技術確認【演習】
第13・14回 フィジカルアセスメント⑪⑫ バイタルサイン測定:技術確認後まとめ【演習】
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
系統看護講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会

参考図書: フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア

評価方法: 筆記試験100点

ヘルスアセスメントⅡ

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 15 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: フィジカルアセスメント フィジカルイグザミネーション 観察

学習目的: ヘルスアセスメントの考え方を基盤に、解剖生理学の基礎知識やバイタルサイン測定における観察の視点を活かしながら、看護におけるフィジカルイグザミネーションの方法を学習し、全身の状態を的確に系統的に把握するための基本的技術を習得する。

到達目標: 1. フィジカルアセスメントに必要な情報を系統的に把握するための基本的知識を理解することができる
2. フィジカルイグザミネーションの基本的技術を理解できる

授業内容: 第1回 ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント① 呼吸器系の観察とアセスメント
第2回 フィジカルアセスメント② 循環器系の観察とアセスメント
第3回 フィジカルアセスメント③ 腹部・乳房の観察とアセスメント
第4・5回 フィジカルアセスメント④⑤ 呼吸器・循環器系・腹部の観察とアセスメント【演習】
第6回 フィジカルアセスメント⑥ 筋・骨格系、神経系の観察とアセスメント
第7回 フィジカルアセスメント⑦ 筋・骨格系、神経系の観察とアセスメント【演習】
第8回 評価

テキスト: 系統看護講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会

参考図書: フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア

評価方法: 筆記試験100点

看護過程総論

対応 DP:3

履修年次: 1年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 看護過程 臨床判断能力 クリティカルシンキング ヘンダーソン看護論

学習目的: 看護過程の活用により、対象を統合的に捉え、科学的根拠に基づく看護実践のプロセスとともに、ヘンダーソン看護論を用い、看護過程の基礎を理解する。自らの「気づき」による判断のもと、対象を尊重した看護実践を行えるような臨床判断能力の基礎を養う。

到達目標: 1. 看護過程の構成要素や看護過程の各過程の意味を理解することができる
2. 看護過程を展開する際に基盤となる臨床判断能力の重要性を考えることができる
3. ヘンダーソン看護論を活用した看護過程の基礎を理解することができる

授業内容: 第1回 看護過程① 看護過程とは
第2・3回 看護過程②③ 観察と情報収集
第4回 看護過程④ 看護記録・電子カルテ
第5回 看護過程⑤ 記録用紙の記載方法
第6回 看護過程⑥ 看護における報告【演習】
第7回 看護過程⑦ 看護過程を展開する際に基盤となる考え方
第8回 看護過程⑧ ヘンダーソン看護論
第9・10回 看護過程⑨⑩ ヘンダーソン看護論
第11・12回 看護過程⑪⑫ ヘンダーソン看護論による看護過程の展開
第13回 看護過程⑬ ヘンダーソン看護論による看護過程の展開【演習】
第14回 看護過程⑭ 演習のまとめ
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社

参考図書: 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ

評価方法: 筆記試験100点

看護過程実践論

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 看護過程 アセスメント 看護計画 呼吸困難 発熱 体液調整 腹部膨満・便秘

学習目的: ヘンダーソン看護論を用い、看護過程の基礎を理解する。自らの「気づき」による判断のもと、対象を尊重した看護実践を行えるような臨床判断能力の基礎を養う。フィジカルアセスメントや解剖生理学の知識をふまえ、症状別の看護を理解し、看護過程における看護実践に生かす。

到達目標: 1. ヘンダーソン看護論を活用した看護過程について事例を通じ理解することができる
2. 対象の症状の原因やメカニズムを理解しアセスメントや計画に活用することができる

授業内容:

第1回	アセスメント① 「姿勢」
第2回	アセスメント② 「休息と睡眠」「環境」
第3回	アセスメント③ 「排泄」「食事」
第4回	アセスメント④ 「清潔」「衣服」
第5回	アセスメント⑤ 「呼吸」「体温」
第6回	アセスメント⑥ 「仕事達成感」「意思伝達」「学習」
第7回	アセスメント⑦ 「信仰」「レクリエーション」
第8回	発熱の症状を示す対象の看護 【演習】
第9回	苦痛の緩和・安楽確保の技術【演習】
第10回	看護計画① 看護上の問題の明確化
第11回	看護計画② 優先順位の根拠・立案
第12・13回	看護計画③④ 実施・評価・修正 【演習】
第14回	看護過程まとめ 14の構成要素から看護実践を振り返る
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
 ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
 看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社

参考図書: 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ

評価方法: 筆記試験 80 点 レポート 20 点

臨床看護技術論

対応 DP:3

履修年次: 2年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 無菌操作 薬物療法 6Rの確認 診察 検査

学習目的: 健康障害をもつ対象への治療・処置に応じた看護と原理・原則を踏まえた看護技術を学習する。

- 到達目標:
1. 無菌操作の基本的知識を理解し、滅菌物を取り扱うことができる
 2. 与薬の基本的知識を理解し、対象の安全に配慮し与薬を実施することができる
 3. 診察や検査の目的看護師の役割を理解し、実施することができる

- 授業内容:
- 第1回 感染防止の技術①
 - 第2・3回 感染防止の技術②③ 無菌操作【演習】
 - 第4回 与薬の技術①
 - 第5回 与薬の技術②
 - 第6・7回 与薬の技術③④ 与薬【演習】
 - 第8回 与薬の技術⑤
 - 第9・10回 与薬の技術⑥⑦ 輸液療法【演習】
 - 第11回 診察・検査・処置の介助技術①
 - 第12回 診察・検査・処置の介助技術②
 - 第13回 診察・検査・処置の介助技術③ 血液検査【演習】 静脈血採血
 - 第14回 診察・検査・処置の介助技術④ 包帯法【演習】
 - 第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア

評価方法: 筆記試験 100点

看護研究 I

対応 DP:5

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 15時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 看護研究 倫理 ケースレポート 研究課題 研究計画書 文献検索 文献検討

学習目的: 看護研究の意義・方法を学ぶことにより、研究への基本的姿勢を学び、研究論文の文献検討(クリティーク)を通し看護現象を客観的に捉え、論理的・科学的に探究する姿勢を学ぶ。

到達目標: 1. 看護研究の意義や専門職業人としての研究の必要性を理解することができる
2. 研究の過程を理解することができる
3. 研究論文の文献検討(クリティーク)を通し、文献検索方法とともに論文を読む客観的視点を理解することができる

授業内容: 第1回 看護研究とは
第2回 研究の過程
第3回 ケースレポートの方法と実際
第4・5回 文献検索の実際(コンピューター実習室)
第6回 文献検討(クリティーク)の実際①
第7回 文献検討(クリティーク)の実際②
第8回 評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

参考図書: 高橋百合子 看護学生ためのケース・スタディ メヂカルフレンド社
松本孚・森田夏実編集 看護のためのわかりやすいケース・スタディの進め方 照林社

評価方法: 筆記試験 80点 レポート 20点

看護研究Ⅱ

対応 DP:5

履修年次: 3年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 15時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 看護研究 倫理 ケースレポート 研究課題 研究計画書 文献検索

学習目的: 担当した事例の実践のプロセスを振り返り、客観的にその意味を考察することにより、3年間の学習過程を考えることができる。ケースレポートの作成を通じ、看護について思考することにより、ヒューマン・ケアリングや自己の看護観を深め、将来にわたる看護専門職への発展へつなげることができる。

到達目標: 1. 研究テーマを明らかにし、研究計画書を作成することができる
2. 研究計画書をもとに、ケースレポートの作成を通じ自己の看護観を深めることができる

授業内容:

第1回	研究計画書の作成とすすめ方
第2回	研究課題の明確化
第3回	ケースレポート作成にあたって
第4回	ケースレポート作成の実際①
第5回	ケースレポート作成の実際②
第6回	ケースレポート作成の実際③
第7回	ケースレポート作成の実際④
第8回	評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

参考図書: 高橋百合子 看護学生ためのケース・スタディ メヂカルフレンド社
松本孚・森田夏実編集 看護のためのわかりやすいケース・スタディの進め方 照林社

評価方法: レポート 100点

地域・在宅看護論概論 I

対応 DP: 4

履修年次: 1 年次前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 本校専任教員(看護師としての実務経験5年以上)

Keywords: 地域・在宅看護の概念 地域包括ケアシステム 社会資源 多職種 介護保険制度

学習目的: 地域・在宅看護論が必要とされる背景と基本理念をふまえ、人々が生活する地域を捉える視点や、地域における社会資源についての知識を習得する。

到達目標: 1. 地域を捉える視点を理解する
2. 地域・在宅看護が必要とされる背景と基本的概念について理解する
3. 生活者の視点から地域での生活を支える法・制度・社会資源について理解する

授業内容:

第1回	地域で生活すること
第2回	私たちの生活する地域①
第3回	私たちの生活する地域②
第4回	地域・在宅看護の社会的背景と目的
第5回	地域・在宅看護の対象
第6回	地域・在宅看護に関わる法と制度①
第7回	地域・在宅看護に関わる法と制度②
第8回	地域・在宅看護に関わる法と制度③
第9回	地域包括ケアシステム
第10回	地域包括ケアシステムを調べてみよう①
第11回	地域包括ケアシステムを調べてみよう②
第12回	地域包括ケアシステムを調べてみよう③
第13回	地域包括ケアシステム調査発表
第14回	地域包括ケアシステム調査発表とまとめ
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院

評価方法: 筆記試験 80 点 レポート 20 点